

様式13

会派視察研修計画書

令和元年 8月 8日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ
代表者名 小池友紀子

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	小池友紀子	
日時	令和元年10月10日（木）～令和元年10月11日（金）	
視察先	秋田県 湯沢市	
研修内容	第2回地域共生社会推進全国サミット in ゆざわ つながる環を新しい時代につなぐ ～人口減少を乗り越えるために今できること～	
日程	(視察先到着時間・宿泊先名及び電話も記入) 別紙のとおり	
交通手段	公共交通機関利用 乗降車駅名 ()	自家用車利用 <u>1</u> 台 所有者名 (大竹敦子)

(議会事務局記入)

旅費の額	(内 訳)
円	

様式14

会派視察研修報告書

令和元年10月18日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 小池 友妃子 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 1 人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	小池 友妃子
日時	令和元年10月10日（木）～11日（金）
視察先	秋田県 湯沢市
研修内容	第2回地域共生社会推進全国サミット in ゆざわ つながる環を新しい時代につなぐ ～人口減少を乗り越えるために今できること～
視察先面会者 又は講師名等	大森彌東京大学名誉教授 橋本岳厚生労働副大臣 松尾崇鎌倉市長 大島一博厚労省老健局長 鈴木俊夫湯沢市長 佐藤博(社)雄勝なごみ会事務局長 他 加藤博和名古屋大学大学院教授・地域公共交通プロデューサー
備考	

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。

会派視察研修報告書

令和元年10月18日

議員氏名 小池 友妃子 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和元年10月10日（木）～令和元年10月11日（金）
- 2 視察先 秋田県湯沢市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

第2回地域共生社会推進全国サミット

「つながる環（わ）を新しい時代につなぐ～人口減少を乗り越えるために今できること～」をテーマに、秋田県湯沢市で開催された。秋田県は今、日本一高齢化が進んで人口が減っている。ちなみに碧南市では平成30年度で23.21%の高齢化率。今回開催地である湯沢市では38.9%の高齢化率。そして、この問題は、多くの地方自治体が同じ課題を抱え悩んでいると思う。

湯沢市は、課題先進地の代表として、人口減少を乗り越える持続可能なまちをつくるため、世代や分野を超えて「人」「モノ」「お金」、そして「思い」がつながり循環する「地域共生社会」の実現を目指しているまち。

「地域共生社会」とは…

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会（平成29年2月7日厚生労働省「我がこと・丸ごと」地域共生社会実現本部決定）を目指すもので、人口減少を乗り越える持続可能なまちをつくるために今、その実現が求められている。

1) 基調対談…新福祉ビジョンの構想から地域共生社会の実現へ

大森彌東京大学名誉教授（コーディネーター）

橋本岳厚生労働副大臣、鈴木俊彦厚生労働事務次官（対談者）

「我が事・丸ごと」の地域づくりの強化に向けた取組の推進が大切。

具体的には、

(1) 住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり

①他人事を「我が事」に変えていくような働きかけ

②地域の課題を「丸ごと」受け止める場

(※ ニーズや悩み事を一カ所で丸ごと受け止める場が必要。困っている人は色々なことに困っているから)

(2) 多機関の協働による包括的支援体制構築

複合化・複雑化した課題に的確に対応するために、各制度ごとの相談支援機関を総合的にコーディネートするため、相談支援包括化推進員を配置し、チームとして包括的・総合的な相談体制を構築すること大切。

橋本厚生労働副大臣が作った橋本ビジョンでは、個人と社会、住民と社会といったかかわりを持つことが必要とされている。人はひとりでは生きられない。ライフスタイルが多様化し、地域の在り方が変わり、地域のつながりがほころび始めている現在であっても、社会の場所、居場所をつくる必要がある。

すなわち、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を実現することがこれからの社会に必要なとなる。

2) パネルディスカッション…新しい時代の地域共生社会

永田裕同志社大学教授（コーディネーター）

谷内繁厚生労働省局長、尾崎厚生労働省局長代理、谷寿男鷹栖町長、松尾崇鎌倉市長（パネリスト）

平成28年6月2日に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」では、子供・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高めあうことができる「地域共生社会」を実現するために地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことができる仕組みを構築するとされている。

そして、このためには、市町村が、「地域住民の地域福祉活動への参加を促進するための環境整備」と「住民に身近な圏域において、分野を超えて地域生活課題について総合的に相談に応じ、関係機関と連絡調整等を行う体制」を整えることが大切であるということ。

また、新たな福祉政策のアプローチとして、現行の現金・現物支給の制度に加えて、専門職の伴走型支援により地域や社会とのつながりが希薄な個人をつなぎ戻していくことで包摂を実現していく視点や地域社会に多様なつながりを生まれやすくするための環境整備を進める視点の双方が必要となってくる。

では、地域共生社会に向けた包括的な支援体制であるが、

- ① 断らない相談支援
- ② 参加支援（社会とのつながりや参加の支援）
- ③ 地域やコミュニティにおけるケア・支えあう関係性の育成支援

これらの3つの機能を一体的に見ることが必要である。

さらに、多様な担い手の参画による地域共生に資する地域活動の促進も必要で、福祉、地方創生、まちづくり、住宅施策、地域自治、環境保全などの関係者が相互の接点を広げ、地域を構成する多様な主体が出会い、学びあうことができる「プラットフォーム」を構築することも検討すべきである。

北海道鷹栖町の地域共生社会を実現するための取り組み事項

お互い様づくり行動計画→・相談窓口の体制整備・強化

- ・見守り活動の体制整備・強化
- ・居場所づくり
- ・買い物支援
- ・権利擁護の推進充実

神奈川県鎌倉市の地域共生社会を実現するための取り組み事項

SDGs 未来都市・自治体SDGsモデル事業

→・鎌倉から人と地球を幸せにする17の約束

- ・カマコン
- ・まちのシリーズ
- ・鎌倉テレワーク・ライフスタイル研究会
- ・リビングラボ
- ・福祉政策マニフェスト2017
- ・鎌倉市共生社会の実現をめざす条例
- ・セカンドライフかまくら
- ・障害者二千人雇用
- ・バリアフリー対応の海水浴場
- ・かまくら共生カフェ

人口減少時代に、鎌倉ができること→①多様な人材の活用（地域力強化）

②それぞれの立場や状況を尊重し、共創を軸に全部ジブンゴト化する（地域づくり）

③強さでつながり、弱さでつながる（分野を超えた取り組み推進）

3) 分科会…みんなで作る持続可能なくらしの足づくり

加藤博和名古屋大学教授（コーディネーター）

田中由紀（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部次長）、小宮山陽夫（MONET担当部長）、尾崎守正（厚生労働省課長）

MaaS→これは Mobility as a Service を略した言葉で、そのまま直訳すると「サービスとしての移動」という意味。ただし、「as」という単語には類似性を示す意味合いも含むため、「人やモノの移動＝サービス」と捉える概念こそが、真の意味での MaaS。

コーディネーターの加藤教授のM a a Sは、M もっと
 a あなたらしく
 a あんしんして
 S 生活するために

国土交通省では「地域公共交通確保維持改善事業」により、地域の多様な関係者が協働した地域の公共交通の確保・維持、利便性の向上等の取組みを支援している。
 (クルマがなくても)「おでかけ」できること。それが、地域公共交通の「一番の」存在意義。

- ・クルマがあれば地域公共交通はいらない?
- ・クルマを運転できなくても、誰かに乗せてもらえばいい?
- ・モノが来てくれればいい? (通販、移動販売車など)
- ・ITを使えばいい? (SOHO、テレビ会議、チャットなど)

「おでかけ」しなくても済むのはいいけど、
 「おでかけ」が自由にできないのは健全なのか?
 「いざという時に使える」「つながっている」という安心も大切。

「おでかけ」しやすくすることは、生活を、そしてリアル地域を「いきいきわくわく」にするための方法の1つなので、交通手段に魅力があるとか、必要なところや行きたいところに行けてうれしいということを目指すことが必要となってくる。

地域公共交通により「おでかけ」を提供することで地域のクオリティーオブライフを高め、安心安全を守り豊かさを増進させていくことが今後必要。

クルマを使う人より、公共交通を使う人のほうが元気で健康。どの路線で行くか考えるし、結構歩くので。だから車に乗れるうちに公共交通も乗るようにしておくことが必要。でないといざという時に公共交通を使えなくなる。だから縦軸だけでなく横軸も含めて、今後の公共交通の在り方を検討する必要がある。

クルマ社会である碧南市。「おでかけの足」は地域にとっても非常に重要で、車がないと人が来ない。でも、利用者負担だけではとても確保はできない状況にある。みんな支えあうことが必要。「共助=我が事」という意識を持ち、取り組むことが必要となってくる。

